

# 災害廃棄物処理計画策定支援事業及び 災害廃棄物処理計画効果検証事業報告

令和 4 年 3 月

関東地方環境事務所

資源循環課



# 1. 災害廃棄物処理計画の策定に向けた取組（計画策定支援事業）

## 取組の概要

- 平成27年度より、災害廃棄物処理計画作成支援事業を開始
- これまでに**計68件**の災害廃棄物処理計画の作成を支援（令和3年度も継続）

都県	モデル自治体数	都県	モデル自治体数	都県	モデル自治体数	都県	モデル自治体数
茨城県	11	埼玉県	2	神奈川県	3	静岡県	1
栃木県	10	千葉県	11	新潟県	8	計 68件 (うち令和3年度分10件)	
群馬県	9	東京都	6(4)	山梨県	7(6)		

(注) 表中の括弧書きの内数は令和3年度事業の実施件数を示す

## 取組の特徴

- 平成31年度以降は、災害廃棄物処理計画の「骨子案」及び「解説テキスト」を基に参加自治体職員が自ら検討する形式（対話形式による作成）を採用
- 災害廃棄物処理対応に係る関係者との連携強化のため、庁内関係部局・関係行政機関・民間事業者等を参集した「意見交換会」を開催し、平時からの連携強化を推進

### ▼意見交換会の開催状況



# 1. 災害廃棄物処理計画の策定に向けた取組（計画策定支援事業）

## 計画策定支援事業の概要

- 関東地方環境事務所が選定した参加自治体に対して処理計画を策定するための1年間のプログラム（次頁を参照）を提供

## 事業の進め方

- 以下に示す会議形式と演習形式を組み合わせて事業を実施

会議・演習	実施時期・実施回数	内容
関係者会議	1年を通して4回又は5回実施	災害廃棄物処理計画を作成する、事務局から解説やポイント説明を行うための会議
図上演習	8月～9月頃に1回、10月～11月頃に1回開催	災害時の状況を想定の下、災害廃棄物処理上の課題とその対応について、グループで考える演習
意見交換会	2月中に開催	災害廃棄物処理対応に関して庁内で課題を共有したり、意見交換を行う会議
情報交換会	3月中に開催	計画策定に当たって直面した課題や悩みを市町村同市で共有し、課題解決のための情報共有を行う会議

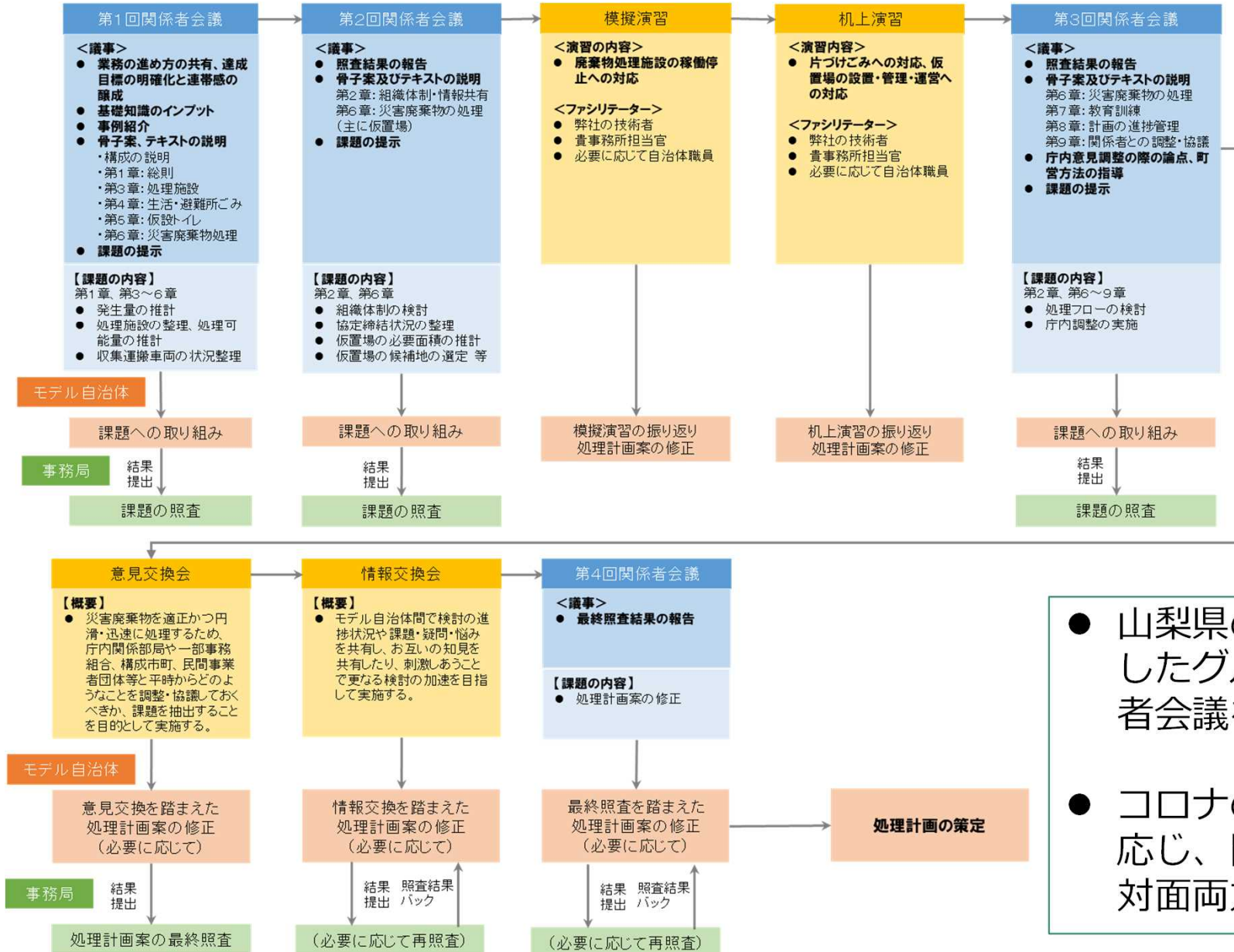
## 対象市町村

- 東京都4自治体（あきる野市、奥多摩町、日の出町、檜原村）
- 山梨県6自治体（大月市、小菅村、丹波山村、道志村、富士川町、身延町）

# 1. 災害廃棄物処理計画の策定に向けた取組（計画策定支援事業）

## 1年間のプログラム

※会議や演習の順番は、東京都及び山梨県で異なる。事情に応じて調整。



- 山梨県の自治体を対象としたグループでは、関係者会議を5回実施
- コロナの感染対策状況に応じ、開催方法はWEB・対面両方で実施

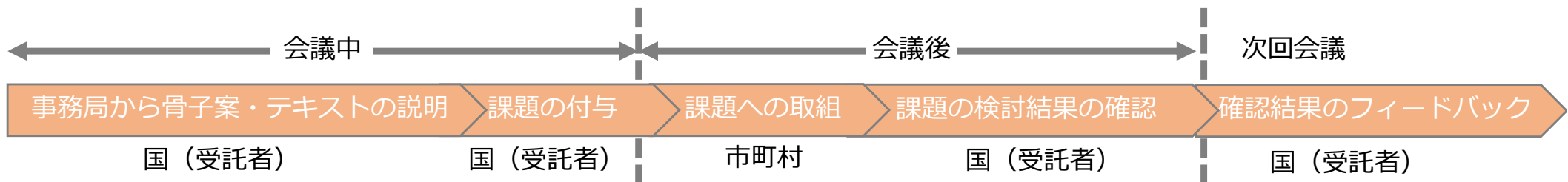
# 1. 災害廃棄物処理計画の策定に向けた取組（計画策定支援事業）

## 計画の作成にあたり使用した主な資料

- 災害廃棄物処理計画**骨子案**：廃棄物処理の基本的な考えを示すものであり、最低限盛り込むべき事項としてまとめたもので自治体それぞれの事情に合わせ穴埋めを行う形式
- 計画策定のための**解説テキスト**：骨子案の内容に係る解説や事例等を記載した参考図書

## 関係者会議の流れ

- 関係者会議では、計画策定のための解説や自治体が行い組んだ課題に対する照査結果を報告。参加自治体が計画のブラッシュアップを繰り返して計画を作成



## 会議の開催方法

- 関係者会議：コロナの状況に応じ、WEB会議・対面の会議両方実施
- 図上演習：対面で実施
- 意見交換会：コロナの状況に応じ、WEB会議・対面の会議両方実施
- 情報交換会：WEBで実施



写真：山梨県での関係者会議の様子

# 1. 災害廃棄物処理計画の策定に向けた取組（計画策定支援事業）

## 今年度の特徴

### 【東京都の場合】

- 西秋川衛生組合の全構成市町村が一緒に計画策定に取り組んだ
- 西秋川衛生組合及び東京都産業資源循環協会にも会議に出席してもらい、コミュニケーションを図りながら計画策定に取り組んだ
- 東京都が主導して構成市町村、組合の**合同処理マニュアル**を作成、計画の実効性を担保
- 東京都は、多摩環境事務所職員に加え、本庁職員も複数名が参加

### 【山梨県の場合】

- 自治体の規模が小さく、平時の処理を同じ近隣市町村に委託している参加自治体では担当者同士で情報共有を行いながら計画作成に取り組んだ
- 山梨県担当者が全ての会議・演習に参加し、市町村の計画策定に向け積極的に支援し、発災後の支援要請に関する事など市町村にとって県との連携項目についての認識が深まった

### 【共通】

- 関係者会議・図上演習の実施において、被災経験のある自治体職員（令和元年房総半島台風や令和元年東日本台風で災害廃棄物処理を経験した自治体職員）に参加してもらい発災後の対応について講演・助言を受けたこと・意見交換ができたことで計画の活用方法や発災後の対応についての理解を深めることができた

## 2. 災害廃棄物処理計画の効果検証に向けた取組（令和3年度から）

### 取組実施の背景と問題意識

- 災害廃棄物処理計画の策定率は向上しているものの、近年の災害において、災害廃棄物処理計画の見直しが継続して行われていなかった自治体での初動対応の遅れから、路上に大量の災害廃棄物が堆積する等の課題が発生

自治体が策定した災害廃棄物処理計画の効果を検証し、発災時の対応力向上を目指して  
災害廃棄物処理計画の更なる改善や充実を図ることを目的に図上演習等を実施

### 演習の概要

- 令和3年度は、埼玉県・神奈川県・静岡県の計画策定済み自治体を対象に実施
- 計画の検証に当たり、議論して参加者各自がじっくりと考えることができるよう、「対応型図上演習」を採用
- 参加者を複数のグループに割り振った上で、グループ毎に進行役（ファシリテーター）を配置し、進行役からの質問に対し計画を確認して回答する「問答形式」で演習を進行
- 演習（各県2回）の実施により計画見直しの必要性を認識してもらうとともに、計画見直しが効果的に進むよう、フォローアップ（演習後、各県1回）の場も設定

#### ▼演習進行（やり取り）の状況



図上演習の写真  
平成30年度（参考）

## 2. 災害廃棄物処理計画の効果検証に向けた取組（演習事業）

### 演習の特徴

- ① 自組織の災害廃棄物処理計画に基づき、発災後の初動対応が行えるか確認する。  
→ **実効性の確認**
- ② 本演習を通して、継続的に災害廃棄物処理計画の見直しを図る。  
→ **計画見直しの契機**

### 事前準備・事前勉強会の企画

- 演習資料（演習時の問いかけ一覧）を事前送付し、演習参加前の「災害廃棄物処理計画の読み込み」や「協定内容の確認」等の**自習（予習）を原則**
- 演習効果を高めるため、計画の重要性・ポイント、被災自治体や災害廃棄物処理の現場の実態等を学ぶ機会として**「事前勉強会」を開催**

### 想定する災害・状況付与

- 各自治体のハザードマップを参照し、**実際に想定されている洪水による浸水被害を想定**
- 発災後の時系列に応じた被災地における状況変化や廃棄物処理対応に関して生じる課題等を具体的にイメージできるように自治体ごとに地図情報・イメージ写真を準備

### 対象フェーズ

- 災害廃棄物処理計画に基づく初動対応が求められる**発災初動期のフェーズを対象**  
（発災直後～発災2週間程度）



## 2. 災害廃棄物処理計画の効果検証に向けた取組（演習事業）

### 状況付与資料

#### ▼被災地における地図情報

被災地の状況変化をイメージできるように時系列ごとに作成

#### 被災位置図

発災1週間後



出典：「国土数値情報（浸水区域データ）」（国土交通省）(kasen\_kuni\_sinsuiL1.html)を加工して作成

状況写真③ 片付けごみの路上堆積の状況 発災1週間後



出典：「災害写真データベース」

状況写真④ 無人の集積所の発生状況 発災1週間後



出典：「災害廃棄物処理支援ネットワーク（D.Waste-Net）」

## 2. 災害廃棄物処理計画の効果検証に向けた取組（演習事業）

### 演習テーマ・演習内容

- 発災後に求められる初動対応のうち、**発災初動期に頻繁に課題となる事項**を選定
- 「災害時の一般廃棄物処理に関する初動対応の手引き」や「市町村向け災害廃棄物処理行政事務の手引き」等を参考に演習テーマ・演習内容を設定

テーマ	演習内容
被害情報の収集	被害情報の収集に関する初動対応について、自組織の処理計画の記載内容を確認する (情報収集項目/情報入手先/情報入手方法等)
生活ごみ・避難所ごみへの対応	生活ごみ・避難所ごみに関する初動対応について、自組織の処理計画の記載内容を確認する (周知・広報/収集体制の構築/処理体制の確保等)
各種災害トイレ・し尿への対応	各種災害トイレ・し尿に関する初動対応について、自組織の処理計画の記載内容を確認する (周知・広報/収集体制の構築/処理体制の確保等)
片付けごみへの対応・一次仮置場の設置	片付けごみ・一次仮置場の設置に関する初動対応について、自組織の処理計画の記載内容を確認する (片付けごみの回収方法/周知・広報/開設準備等)
一次仮置場の管理	一次仮置場の管理に関する初動対応について、自組織の処理計画の記載内容を確認する (場内での対策/管理項目/ひっ迫への対応等)

## 2. 災害廃棄物処理計画の効果検証に向けた取組（演習事業）

### （参考）演習事業の全体像

#### 【1回目（演習）】2021年12月開催

0. 事前勉強会（座学（講演））

1. 机上演習の流れ・状況付与

#### 2. 演習

質問（進行役⇒参加者）  
※必要に応じグループごとに状況付与

回答（参加者）

意見交換・情報共有（参加者間）  
（計画に記載すべき事項）

3. 講評

4. 演習結果の整理・共有（事務局が整理）

#### 【2回目（演習）】2022年1月開催

5. 机上演習の流れ・状況付与（復習）

6. 演習※演習の進め方は左記と同様

7. フォローアップに向けた宿題提示

8. 演習結果の整理・共有（事務局が整理）

9. フォローアップに向けた準備（各自治体）

#### 【3回目（フォローアップ）】 2022年2月開催

10. フォローアップの流れの説明

11. フォローアップ  
※複数テーマを設定し、見直し内容について情報交換